

「第9回 健康寿命をのばそう！アワード（母子保健分野）」 受賞事例一覧

部門	企業・団体・自治体等名称	取組名
●厚生労働大臣最優秀賞		
	特定非営利活動法人ZEROキッズ	マンションと地域をつなぐ多世代交流事業
●厚生労働大臣優秀賞		
企業部門	株式会社AsMama	知人同士の共助ICTプラットフォーム「子育てシェア」を活用した頼り合いコミュニティ形成
団体部門	赤ちゃんとママの防災講座	乳幼児親子向け防災講座「赤ちゃんとママの防災講座」
自治体部門	飛騨市	飛騨市産前産後ママサポプロジェクト
●厚生労働省子ども家庭局長賞		
企業部門 優良賞	FUNFAM株式会社	日本発世界初。オンライン離乳食スクールでコロナ禍のママを孤立させないプロジェクト
	エキサイト株式会社	WEラブ赤ちゃんプロジェクト
	株式会社mitete	一時保育マッチングサービスmitete
団体部門 優良賞	久留米大学	子どもと親のためのヒーロー図鑑 ～心を支えてくれるヒーローたち～（親子の心のHEROES）
	特定非営利活動法人きずなメール・プロジェクト	きずなメール事業
	特定非営利活動法人わははネット	縁結び・子育て美容-eki
	東京家政大学	子どもも大人も創造力を豊かにするアートな遊びの場づくりプロジェクト
	医療法人社団愛育会 福田病院	「福田病院 母子サポートセンター」児童虐待予防に向けた産婦人科医療機関の取り組み

厚生労働大臣最優秀賞

受賞者名

特定非営利活動法人ZEROキッズ

取組タイトル

マンションと地域をつなぐ多世代交流事業

所在地 〒165-0022 東京都中野区江古田3-14-1プラインメゾン江古田の杜2階

電話 03-3385-5111

ウェブサイトURL <https://zerokids.org/>

取組課題 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」

第9回

寿

健康寿命を
のばそう!
AWARD
最優秀賞

■背景と目的

中野区江古田の約39,500㎡の敷地に、積水ハウス、総合東京病院、UR都市開発機構の三者協働により「多世代により育まれる持続可能な地域をつくる」をコンセプトにしたまちづくり「江古田の杜プロジェクト」が進められ、2018年9月にまちびらきが行われました。分譲マンション531戸、賃貸525戸(子育て世帯向け263戸、サービス付き高齢者住宅121戸、学生向け141戸)、さらに敷地内には介護付き有料老人ホーム、病院、コンビニ、保育園、学童クラブ、地域交流スペース「リブインラボ」があり、ここだけで新しい一つのまちと言えるほどの規模です。私たちNPO法人ZEROキッズは、このマンションの中の「リブインラボ」という地域交流スペースを中心としたエリアマネジメントと「もりのいえ」という子育て支援施設を受託運営しながら「子どものパワーで地域をつなぎ文化をつくる」をモットーに日々活動を行っています。

新しく住民となった乳幼児親子と地域をつなげ、人や場所、サービスといった様々な地域資源を紹介し、イベントをきっかけに交流を促し、若いファミリー層と地域をつなげることで地域コミュニティを活性化させ、温かい地域の居場所を作り子どもたちの健やかな成長に貢献すること、子どもたちにふるさとと呼べる場所と地域の記憶を残すこと、が私たちの目的です。

■対象者:

乳幼児親子を中心に小学生や高齢者まで、マンション及び近隣地域の人たち

■方法

- ① マンション内に常設のキッズルームを中心として親子の交流と居場所づくりを行う。水曜日以外土日でも開館(10:00～18:00)
- ② 子育て世帯対象の定例イベントの開催
・赤ちゃんおはなし会(毎週)・音の楽校(音あそび、手作り楽器)
月2・ママストレッチ月2・子育てサロン(講師:保健所、消防署)

年4・季節の台所(食育)年4・水あそび、季節の工作、赤ちゃん写真館

- ③ 子どものパワーを活かして多世代が交流できるイベントの開催
・季節イベント(こいのぼり、七夕、文化祭、森の音楽会、百人一首大会、物産展、等)
- ④ 近隣の高齢者施設を訪問して、子どもたちと高齢者が歌で交流
- ⑤ 今年度は新型コロナウイルスの感染拡大のために、実際に集まって交流を促進するイベントが行えないため、オンラインでの講座や音楽会を開催。
- ⑥ 情報の提供:施設内に地域情報や子育て情報を設置、またインターネットにより随時、子育てに役立つ情報提供を行っている。

■成果

- ・マンション内外を問わず、毎日20～40組の乳幼児親子が「もりのいえ」を利用している。土日でも開館することで、母親だけでなく父親、家族でくつろぐ姿が見られる。
- ・子どもを介して地域の友人が出来、情報交換の場ともなっている。
- ・当会の25年の活動のノウハウや人脈により、地域のNPOや専門家の協力を得ての様々なイベントのプログラムが子育てに役立つという声が多く聞かれる。
- ・季節毎の「森の音楽会」には地域の人も多く参加し、音楽により和やかな多世代交流が持たれている。

■今後の取り組み

現在、中野区では集合住宅の居住世帯が全世帯の78%です。集合住宅に暮らす人たちが地域に愛着を持ち、地域の中で子育てできるように、従来の地縁コミュニティや行政とつなぎ、異年齢・多世代の交流をサポートしていきたいと思っております。



「もりのいえ」は親子の居場所、交流の拠点

イベントの“オンライン教室”がはじまったよ!
おうち時間を楽しもう! みんなと会える!

毎週月曜 11:00-11:30 赤ちゃんおはなし会
不定期 木曜 11:00-11:30 絵本のリトミック
毎週日曜 11:00-11:30 音の家族
毎週金曜 11:00-11:30 ママのためのストレッチ
毎週土曜 11:00-11:30 表現ワークショップ

入道費自由! 事前申し込み不要! 例しくはチラシをみてね!

真夏のファンタジー
森の音楽会 Vol.6
8/15(土) 15時より YouTube 配信開始!
右上のQRコードを読み取ると動画が閲覧できます

ソプラノ 山下尚子
バリトン 藤川陽也
フルート 千城智子
ピアノ 相原郁美

詳細は、チラシをご覧ください。
【主催】森の会
江古田の社/リブインラボ協議会
03-3385-5111
revinlab@egitai@gmail.com
【企画】ZERO
NPO 法人 ZERO キッズ
〒201-8501 東京都千代田区千代田
Supported by THE GIN de Live! プラ

コロナ禍のイベントはオンラインで



音楽とこどものパワーで地域多世代交流



江古田の森であそぶこどもたち



キッズルーム内の絵本ライブラリー



赤ちゃんおはなし会

第9回



健康寿命を
のばそう!
AWARD
優秀賞

受賞者名

飛騨市

取組タイトル

飛騨市産前産後ママサポートプロジェクト

所在地 〒5094221 岐阜県飛騨市古川町若宮2丁目1番60号

電話 0577-73-2948 ウェブサイトURL <https://www.city.hida.gifu.jp/>

取組課題 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」

基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」

重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」

「健康日本21(第2次)に含まれる母子保健に関するテーマ」

取組の背景

当市では母子手帳交付時の全妊婦との面接に加え、妊娠後期の全妊婦に対する訪問や面接、赤ちゃん訪問の100%実施、乳幼児健診の他に市独自の相談事業を実施するなど、妊娠期からの切れ目のない支援を目指し母子保健事業を展開してきた。1歳6か月児健診、3歳児健診の受診率も100%を維持している。

一方、市内には出産可能な医療機関がなく、既存の母子保健事業だけでは十分な支援を提供できないケースも増加してきた。こうした実態から、母乳育児相談を行う市内の開業助産師と会議を重ね、平成30年に訪問型産後ケアを5事業者に委託し費用の助成を開始した。

訪問型産後ケアを実施する中で、市母子保健事業が始まる生後3か月までの間に母へ寄り添い、サポートできる事業や機関が少ないという新たな課題が見つかった。

このことから、愛着形成に重要な時期に手厚い支援を行うことを目的に、デイサービス型産前産後サポート事業「にこにこルーム まるん」を開設した。さらに「子育て支援ヘルパー」「乳児託児」を実施し、多職種が連携した「飛騨市産前産後ママサポートプロジェクト」を開始した。

取組の概要

令和元年より「にこにこルーム まるん」の名称で、保健センターと同一施設内に、週2回、妊婦や乳幼児の母親が集まり交流できる場を設けた。産後ケアを委託している助産師がスタッフとして常駐し、寄り添い型の支援を行っている。助産師とは随時情報共有を行い、さらなるサポートが必要と考えられる場合は訪問型産後ケアにつなぐなど、連携して母親のサポートにあたっている。また、助産師と保健師、担当課長および事務職員も加わり月1回会議を行う中で支援の仕組みを検討している。

また、これまで当市には産前産後に家族等から支援を受けられない母親へ家事支援を行うサービスがなかった。そこで高齢者への家事支援を行っていたシルバー人材センターに事業を委託する事で、産前産後の家事支援サービスを提供できるようにした。さらに、これまでファミリーサポートセンターでの託児は、スタッフの人数確保の困難さや、未定額の乳児を預かるのが不安という

意見から、生後6か月以上の児に限られていたが、乳児について専門的知識を持つ助産師がメンバーに加わることで、生後1か月から託児できるようになった。

このように、既存の地域の人材やサービスを掘り起



こし、体制を整えることで、妊娠中から産後の母子に対しより細やかなサービスが提供できるようになった。

取組の評価

令和元年度(出生数112人)の産後ケア利用状況は、宿泊型1人、訪問型8人であった。子育て支援ヘルパーの利用は6人で、うち5人は訪問型との併用であった。また、乳児託児2人のうち1人は、訪問型、子育て支援ヘルパーを併用するなど、個々の状況に合わせて必要な支援を組み合わせ、産後の母親の心身の回復につなげることができたと考える。また産後ケア終了後は、「にこにこルーム まるん」を紹介することで、継続した支援ができる体制となった。

「にこにこルーム まるん」には毎回多くの参加があり、「家で2人きりの時間が多く、息苦しいことがあったので、ここへ来て心が軽くなった」「妊娠中あまり外出せずにいたので、気分転換になった。妊娠中から出産や産後のことが聞けて良かった」等の意見をいただいている。妊婦が出産後に再び参加するなど、産前産後の切れ目のない支援につながっている。保健師のマンパワーが限られる中、地域で活動する助産師が母親に寄り添い支援を行うことで、不安感や孤立感の解消の一助となっていると思われる。

当市では平成29年に、子育て世代包括支援センターの設置を目的に機構改革を行い、同一施設内に保健センター、子育て支援センター、発達支援センター、子どものこころクリニック(児童精神科国保診療所)などの子育てに関する部署を集めた。「にこにこルーム まるん」を子育て支援センターに隣接したことで、妊婦から入園前の親子に対し、関係各課のみでなく、地域の人材と連携した支援が可能となり、切れ目のない子育て支援や虐待予防につながっていると考える。



今後の課題

近年頻発する災害時に備え、助産師、保健師、栄養士、保育士等の妊産婦や乳幼児に対する専門的知識を持つ防災士を「飛騨市赤ちゃん防災リーダー」として認定し、平常時だけでなく災害発生時にも「地域全体で母子をサポート」できる体制整備を行う。



受賞者名

株式会社AsMama

取組タイトル

知人同士の共助ICTプラットフォーム「子育てシェア」を活用した頼り合いコミュニティ形成

所在地 〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町73 アクティ横浜山下町1306号

電話 045-263-6433 ウェブサイトURL <http://asmama.jp/>

取組課題 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」

当社は、2009年の創業当時より、人と人、人と企業と地域(自治体)が出会い、繋がり、共助・共生する子育て共助コミュニティ形成に取り組んできました。事業方針として第一に、地域に愛着を持つ住人を地域コミュニティの担い手となるよう募集や育成を行い、地域ニーズに基づいて住人同士が出会い、つながりあう機会や場づくりを(担い手を中心となって)支援をしています。一方で、当社が独自に開発する知人間子育て共助システム(ICTプラットフォーム)を地域の担い手と共に普及させることで、子育てを中心とした支援ニーズが知人間で自発的に解消される地域に適した持続可能なコミュニティ形成を実現できることを特徴としています。

ICTプラットフォームの特徴



図1

が生活や子育てを頼りあえる人がいない」という環境下であるからこそ(内閣府調べ)、当社は自治体や不動産会社、商業施設等企业からの依頼により、対象住人専用のコミュニティをオンラインにも設定し(図1:コミュニティ機能(自治体・企業協働モデル))、ゆるやかなつながりといつでも頼りあえる環境整備も提供しています。

ICTプラットフォームの機能

「子育てシェア」には、次の3つの機能を実装しています。

- ①物のシェア、予定のシェア、送迎・託児のシェアという共助機能(図2)
- ②地域住人が集い、つながり、交流できるイベント機能
- ③地域情報を発信、共有できるコミュニティ機能

成果(図3グラフ)

- ・累計登録者数 75,600人
- ・共助実績 30,677件
- ・共助による問題解決率 80.52%
- ・利用者満足度 98%
- ・連携自治体・企業は延べ300超



図2



図3

自治体連携事例「子育て共助のまちづくり」富山県中新川郡舟橋村(2018年～)、埼玉県さいたま市(2018年～)

商業施設協働事例「施設共助コミュニティ」静岡県静岡市/ MARK IS 静岡(2018年～)、神奈川県横浜市/ たまプラーザ テラス(2020年～)

不動産協働事例「住人間共助コミュニティ」UR都市再生機構(2016年～)、三菱地所(2020年～)

ユーザーアンケート(複数回答可)では「就職・転職できた」が44%、「残業・休日出勤など仕事の時間を確保できた」が33%、「買い物、美容院、友人と会うなど、自分の時間がもてた」[勉強・自己啓発ができた]が同数22%、「夫婦水入らずの時間がもてた」が10%。

大雨等による電車遅延などの緊急事態下においても、地域の知人同士で子どもの送迎を即時に頼り合ったり、中高生の塾や習い事などの送り迎えを保護者同士ローテーションで頼り合うという活用事例も報告されています。

今後の展望

自治体、商業施設、不動産、企業と協働し、地域インフラ的に頼りあいコミュニティを創生、さらなる共助の促進を目指しています。住人同士が頼りあう居心地の良い地域コミュニティは、万が一の防災・防犯にも寄与し、少子高齢化の歯止め、子育てと育児の両立によるキャリア形成にもつながります。COVID-19の感染拡大が続く場合には、予防対策を徹底し、安全を第一にリアルとオンラインのバランスを調整した交流の場づくりを実施していきます。



受賞者名

FUNFAM株式会社

取組タイトル

日本発世界初。オンライン離乳食スクールでコロナ禍のママを孤立させないプロジェクト

所在地 〒141-0022 東京都品川区東五反田5-1-5

電話 042-519-9520

ウェブサイトURL <https://www.clubyasuyo.com/gokangosai/>

取組課題 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」

重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」

取組の背景

【子育ての悩みNO1は食事】

現在、日本の子供の5人に1人は、何らかの生活習慣病の不安因子を抱えていると言われるほど、過食による肥満やアレルギーなどの問題を抱えた子どもが増加しています。

これが、子育ての悩みNO1は食事と言われるゆえんです。(画像1)

今回のコロナ禍により、Stay homeを強いられ、小さな子供を抱えながらも、外出自粛で行き場を失い、外に出られず、人と会えない。社会との繋がりがなくなった子育て層は今まで以上の不安を募らせ、精神的、肉体的にも追い詰められていることでしょう。

この先の見えない環境がストレスを与え、育児が嫌になり、子供に対して暴力事件が多発していると聞きます。

コロナ禍で、「子どもの食事」の悩みがさらに大きくなるのは当然です。

新型コロナウイルス感染症も収束の兆しは見えず、第2波、第3波が懸念され、今後も不安は募るばかりです。

すぐには感染症の危険が去らないと言われ、子育て中のママは可能な限りお出かけを避けたいと考えています。

加えて、新型コロナウイルスの中で最も苦痛なのは、子供の食事です。

コロナ禍の料理の困りごとのアンケート調査によると「献立のレパートリーに悩む(61%)」「毎食作るのが大変(52%)」「栄養バランスに配慮する事(49%)」となりました。

(出典：新型コロナウイルス感染症流行による「家庭での料理」の変化に関するアンケート/日本最大級の料理ブログのポータルサイト「レシピブログ」)

目的

年間1万人以上のパパママと向き合ってきた当社代表(離乳食研究家)であるYASUYOと共に、自宅にいながら受けられるオンラインスクール(座学レッスン、調理レッスン)を通じ、毎日の離乳食づくりで不安や悩みを抱えるママたちを全力でサポートします。

加えて、離乳食に必要な食材を宅配で届けることで外出の不安

と時間を省きます。(ビジネスモデル特許申請済み)

対象者と内容

コロナ禍で離乳食が始まる乳幼児を持つ子育て層に向けた、安心・安全の非対面式のオンライン離乳食教室を行う(食材宅配付き)(画像2)



画像2

成果

「離乳食期における子育て世代の食の不安と手間を取り除く、身近に子育ての相談できる存在を作る」ことを目標にしています。

本取り組みは、コロナ感染症の影響から孤立化し、子育てに悩む子育て層の扶助になります。この状況でも子育て層のコミュニティと繋がることで、前向きに楽しく、子育てが行えるようになり、母子の幸せで健康な暮らしの支援が期待できます。

今後の展開等

現在、感染拡大防止のため、従来の役所などの行政機関が開催していた離乳食講座は相次いで中止しています。離乳食に悩み、行き場のない子育て層の受け皿がないのは大きな問題になっています。

毎日のようにtwitter上では、行政の開催している離乳食教室の中止を嘆く子育て層の投稿が多く、その不安と悩みの深さを物語っています。(画像3)

今後、従来の対面式型の離乳食教室の代替策として、非対面式型離乳食スクールという本取り組みが契機となり、新たな子育て支援のロールモデルとして全国に発展する可能性があります。



画像3



受賞者名

エキサイト株式会社

取組タイトル

WEラブ赤ちゃんプロジェクト

所在地 〒106-0047 東京都港区南麻布3-20-1 Daiwa麻布テラス 4F

ウェブサイトURL <https://woman.excite.co.jp/welovebaby/>

取組課題 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」
基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」

取組の背景



WEラブ赤ちゃんプロジェクト特設サイト

・赤ちゃんは喜怒哀楽を泣くことで表現しており、場所を気にせず泣いてしまうのは当たり前なこと。しかし、電車やバスなど公共の場で泣き出してしまった赤ちゃんに焦るママ・パパは、心無い言葉や態度を取られ、泣き止ませようと頑張るものの、思うようにいかず悲しい経験をした人は約7割もいる。(※)

- ・SNSでの赤ちゃんの泣き声に対する誹謗中傷、また時に、赤ちゃんの泣き声をきっかけに起きてしまう悲しいニュースを見ることで、ママ・パパたちは「わが子を泣き止ませなければ」という重い責任感に駆られ、肩身の狭い思いをし、のびのびと子育てをする環境ではなくなっている。ましてや、うつ病が懸念される産後ママは、外出すらためらってしまう。
- ・少子化が進み子育て支援に必要な国の制度は作られてきているが、「この社会で子どもを育てたい」と思えるような風土作りはまだ多くはない。
- ・赤ちゃんの泣き声に寛容で「泣いてもいいよ!」と思っている人たちがその思いを意思表示する場もなかなかない。

取組の内容

泣いている赤ちゃん、ママ・パパに対し「焦らなくても、大丈夫! その泣き声、わたしは気にしませんよ」という思いを2軸(ネットとリアル)で可視化し、ママやパパだけでなく、社会全体が子育てしやすい風土であることを表現する。

<ネットでの活動>

- ・プロジェクトサイトでは「赤ちゃん泣いてもいいよ!」と思っている人たちがワンクリックで賛同でき、プロジェクトに対する思いも投稿できる。賛同数とコメントはリアルタイムで更新。
- 賛同数は60,800件超え(2020年11月12日時点)
- 応援コメントは約8,000件寄せられ、10代の学生から60代の祖父母世代まで幅広い方から寄せられた。

<リアルでの活動>

- ・赤ちゃんのイラストに対し周囲が「泣いてもいいよ!」と言っているような吹き出しが描かれたステッカーを制作。ママやパパに声をかけるには勇気があるが、パソコンやスマートフォンに貼って見せることでママやパパが安心できることを期待。ステッカーは入手希望者が多く、初版の100枚から増刷を続け、これまで約23万枚を印刷(他社・自治体コラボ版含む)。

自治体との連携

- ・東京都世田谷区では、もっと温かく見守りあえる地域にしたい

という想いから「世田谷区×WEラブ赤ちゃんプロジェクト」のオリジナルステッカー・キーホルダー・ポスターを区の関係施設で配布または提示している。

- ・三重県や長野県など15県とコラボレーションして『方言版ステッカー』を制作。各県内での子育て支援の取り組みとして、在住者に普及されている。
- ・三重県内では、子連れでの外出の際に不安を抱きやすい電車内に「泣いてもええんやに!」と書かれたコラボポスターが掲示された。
- ・同じ気持ちを持つ企業、団体を募集し、SNSやホームページでプロジェクトへの賛同を宣言してもらい、赤ちゃんの泣き声に寛容である企業や団体があることを可視化。賛同企業、団体は現在200以上にものぼっている。
- ・京都府宇治市では、小学5年生約1,600人に配布された副読本に「すべての人に優しいマーク」の1つとしてステッカーが掲載。次世代はより一層子育てしやすい社会を作るための第一歩を踏み出した。

今後の展開

- ・主軸のママメディア「ウーマンエキサイト」と連動し、ママ・パパたちが子育てしやすい風土を作る。
- ・自治体との連携を拡大させ、日本全体で子育てしやすい地域づくりに貢献。
- ・ステッカー配布とプロジェクトサイトに限らず、新たに「泣いてもいいよ!」を伝える方法を拡大したい。
- ・次世代を担う若者が赤ちゃんが泣くことはごく自然なことだと理解し、子育て世代になった際に前向きに子育てできる社会をつくりたい。
- ・プロジェクトの最終ゴールは、「泣いてもいいよ!」が当たり前の社会になり、プロジェクトがなくても子育てしやすい社会になっていること。

※(参考) https://woman.excite.co.jp/article/child/rid_E1480392142167/



「泣いてもいいよ!」ステッカー。白と青の2種類がある。



ママやパパたちに寄せられたコメント



受賞者名

株式会社mitete

取組タイトル

一時保育マッチングサービスmitete

所在地 〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神2-11-1 福岡PARCO新館5階TheCompany内

電話 080-8862-0710 **ウェブサイトURL** <https://mitete.jp>

取組課題 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」
 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」
 重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」

取組の背景

一時保育マッチングサービスmiteteは、子どもを「ちょっと“みてて”欲しい」と思う保護者の気持ちに寄り添うWEBサービスです。

「一時保育」と耳にすると、利用してみたいと思う保護者は多くいます。しかし、一時保育を利用する場合、保護者はまず【利用できる保育園を調べ】、見つけた保育園に【自身で問合せをする】と、多くの保育園では「事前に登録が必要な為、保育園に直接お越しください」と言われます。

保護者は、登録のために【子どもを連れて保育園まで足を運び】、【多くの書類を書く】こととなります。事前登録が済んでも、利用したいタイミングで【必ず利用できるわけではなく】、保育園に空きがある場合に限りです。

そうすると、保護者は複数の保育園に登録することが多いのですが、登録の数だけ保育園へのお問合せから訪問での事前登録が必要となることが多く、せっかく一時保育を使いたいと思っても、【登録が大変なうえに使える保証がない】ため、利用を諦めてしまう方が多くいます。

一時保育は、保護者が病気や出産で子どものお世話が難しい場合などやむを得ない事情に限らず、就職先を探したい(採用面談)、育児ストレスを発散(リフレッシュ)したい、など様々な理由で利用ができるため、保護者にとっては大変心強い育児サポートサービスです。

一方で、現在の一時保育は利用するにはハードルが高く、困ったとき、使いたいときに使えるサービスとは言い難いものになっています。

取組の内容

上記背景を踏まえて、弊社は、保護者にとって一時保育がもっと頼れるサービスとなるよう「一時保育マッチングサービスmitete」を考案しました。

miteteは、一時保育を行っている保育園を簡単に見つけることができ、miteteにのみ登録を頂ければ、複数の保育園に一括で一時保育のお問い合わせ(リクエスト)が出来るサービスです。

miteteへの登録は、保育園の事前登録を代行する形になるため、情報の入力だけでなく面談も実施しています。面談スタッフは、保育現場の経験がある保育士や保健師が担当しているため、現場目線で保護者やお子さまに対応しています。

保育園にとっても安心ですが、保護者にとっても有資格の専門家とお話ができる為、育児に関する相談や保育園の利用に関する情報の確認が面談の際にできるようになっています。

対象者

未就学児のお子さんをもつ世帯を対象にしていますが、一時保育を実施する施設の中には学童保育に対応しているところもある為、小学生のお子さんをもつ世帯でも利用できます。

成果・今後の展開

miteteは、2018年8月に福岡市が実施する「実証実験フルサポート事業」に採択を受けており、2020年12月まで福岡市内で実証実験としてサービスの実証を行っています。

また、2020年8月には東京都内でのサービス運用を開始しました。2020年11月現在、約700名の保護者と125件の保育園に登録を頂いており、これまで約300件のリクエストに答えられました。

miteteのサービス利用者からは、「保育園が見つけやすい」「いいサービスなのでもっと利用できる保育園を増やしてほしい」といった声を頂いており、現在利用できる保育園を増やすことに尽力しています。

また、今後は福岡市や東京都のみならず全国に広めていく予定です。

miteteのサービスが広がることで、「孤立しがちな子育て」を解消できればと思っています。

公益財団法人児童育成協会が2019年に実施した「子育て中の親の外出等に関するアンケート調査」の結果では、約30%の方が「社会から隔離されて自分が孤立しているように感じている」と回答しています。

miteteでは、一時保育の利用を通して、就労の機会の創出や、ゆとりをもった育児を提供することで、保護者の社会からの孤立や虐待などの問題解決にもつなげていきたいと思っています。





受賞者名

赤ちゃんとママの防災講座

取組タイトル

乳幼児親子向け防災講座「赤ちゃんとママの防災講座」

所在地 〒244-0001 神奈川県横浜市戸塚区鳥が丘69-15 上沢方

電話 080-1437-6057 ウェブサイトURL <http://oyakobousai.wp.xdomain.jp/>

取組課題 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」

基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」

取組の背景

高校時代に阪神大震災を経験。自宅は一部損壊で済んだものの、苦しむ友人達に何もできず、心残りを感しながら上京。都内で出産するも地域に知り合いがならず、すぐに実家にも頼れない状態で、もし災害にあったらどうしよう、と不安に駆られた。

防災士の資格をとり、同じような不安を抱える仲間同士で知識を共有しながら「赤ちゃんとママの防災講座」を立ち上げた。

経営学修士(MBA)や経営コンサルティング会社での経験を活かし、「災害への漠然とした不安」に対して、シミュレーションにより何が起きるか全体像を把握してから、課題に分け、それらを段階的に解決していく方法を提案。

取組の歴史

2016年1月活動開始。2017年度ボランティア・市民活動総合基金「ゆめ応援ファンド」助成対象、2018年度キリン財団「地域のちから」応援事業。



累計約600組の乳幼児親子、約200人の子育て支援者や学生が講座参加。保健所、社協、児童館、子育て支援施設、NPO、自治会・防災会、大学等。

代表は、防災士、東京都語学防災ボランティア(英語)。2018年度中野区社会福祉協議会中野ボランティアセンター運営委員。5歳児母。

取組の目的

- ・育児の中で、最も不安に満ち、脆弱な最初の3年間を対象にした防災講座を行う。0～3歳児期はコミュニティに属さず、孤独を感じるママ達も多い。
- ・子育てに不安を抱える保護者達に、防災を通して、育児に自信を持ってもらう。

内容と独自の工夫点

① 課題整理から始める

・問題：「不安が多すぎて、何から手をつけるべきかわからない」という参加者の声。

対応：地震発生後12時間シミュレーションを通して、時間軸で課題を洗い出し、順序だてて対応策を伝える。また、家の中や外の危険を洗い出し、日常生活の中で子どもの安全を守ることが災害時の安全につながると認識してもらう。

② 自分で判断し、応用するコツをつかんでもらう

・問題：すぐに防災グッズに向かいがち。

対応：自分の頭を鍛える問いかけ。「仕組みを知り、応用する」防水・吸収・固定の仕組みで、おむつ・生理用品・トイレ等必要なものを作る実演を行う。

③ 乳幼児に特化した内容



・問題：多くのママ達が避難所に行けば何とかできると考えている現状

対応：乳幼児連れで避難所行くべきかを検証後(性犯罪、治安、衛生、定員、ストレス、プライバシー等の理由)、在宅避難を推奨しコツを伝える

・問題：ライフライン停止・物不足に起因する不安。

対応：実技を取り入れる。チラシで紙コップを作りコップ授乳やお皿に。災害時の料理方法も教えている。

・問題：災害時、ストレスで母乳が止まるのではと心配するママ達の声

対応：災害時の母乳育児の知識(母乳継続のコツなど)

④ 現代生活にあわせた内容を強化

停電時も、スマホ充電が可能な方法(モバイル太陽光発電バッテリー)、役立つ災害アプリなどIT活用方法を提案

⑤ 今後につなげる仕掛け

・問題：やるべきことが膨大すぎて手をつけられないという声。

対応：講座の締めくくりは、すぐできることから第一歩を踏み出す仕掛け。
例えば、母子手帳や子どものお薬手帳をスマホで写真に撮り、その場でクラウドに保存。合言葉は「一歩踏み出せば、世界を変えられる！」

参加者の声

「普段から子供の安全対策に気を配るようになった」「地震発生から、順番に何が起きるか、どうしたらよいかを教えてもらい、やるべきことが分かった」「防災について、家族で話し合う機会ができた」「講座への参加を機に、地域に知り合いができた」等

今後の展開

・コロナ禍に対応し、オンライン講座や動画制作を実施。

・近年増加する、風水害への対策、コロナ禍中の3密を避ける防災を強化。

・防災ママを増やし、「助けられる側から、助ける側へ」シフトチェンジを目指したい

・避難所運営に乳幼児ママの視点を取り入れられるよう、行政や世の中に発信。「男女共同参画」の視点を防災でも大切にしたい。

・外国にルーツを持つ親子支援のために、講座を多言語化したい。

第9回



健康寿命を
のばそう!
AWARD
優良賞

受賞者名

久留米大学

取組タイトル

子どもと親のためのヒーロー図鑑

～心を支えてくれるヒーローたち～(親子の心のHEROES)

所在地 〒830-0011 福岡県久留米市旭町67

電話 0942-31-7565

取組課題 基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」

取組の背景と内容

学童・思春期の子ども達のメンタルヘルス疾患が本邦では増えている。10代の死因の第一位は自殺で、学童・思春期のメンタルヘルス対策は喫緊の課題である。

しかし、子ども達や保護者は、どこに行けば支援や治療を受けられるのか知る術を持っていない。また、とりわけ思春期の世代になると、かかりつけ医制度もなく、医療機関への受診も抵抗を示すことが少なくない。子どもや保護者が必要な時に必要な心の診療を受けることができることが望まれる。

心の問題を抱える子どもとその家族(親子)を対象に、親子の心の診療を支えてくれる職業(ヒーロー)を知ってもらう目的で、各ヒーローを楽しく紹介するアプリを高校生と共同で作成した。アプリは、手軽に医療情報を提供できること、またGPS機能と接続することで近隣の医療情報を当事者が収集することもできる。

対象者

学童・思春期のすべての子どもとその保護者

方法

代表的な心の診療をストーリー展開で読んでいくレスポパートと、各々のヒーロー(職種)の詳細情報を得ることができるヒーロー図鑑パートの二部構成とした。ストーリーは以下の9つを選定した。

脱出せよ! いじめから(いじめ話題)、運命の選択(希死念慮話題)、学校、どうしよう?(不登校話題)、ダイエットさせてよ!(摂食障害話題)、育て! 育て! 育て!(育てにくさ話題)、ママ大丈夫?(産後うつ話題)、叩く?それともほめる?(虐待話題)、ゲームやっちゃダメ?(ゲーム依存話題)、話せない、聞けないよ(性関連話題)。

いずれのストーリーも、オープニングストーリー、ヒーロー登場ストーリー、エンディングストーリーから構成され、5つ以上

のヒーローと仲間になることでエンディングストーリーにすすめるゲーミフィケーションの感覚を取り入れた。

ヒーロー登場ストーリーは1ストーリー当たり約20のシナリオがある。(全シナリオ数210話)

ヒーロー図鑑に登場する職種は以下の14職種で下記紹介項目を搭載した。小児科医、産婦人科医、精神科医、心理士、看護師、保健師、助産師、保育士、担任教師、養護教諭、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、精神保健福祉士、メディカルソーシャルワーカー。

成果

Google play、Apple storeの審査を通過し、「親子の心のHEROESアプリ」を令和2年8月17日にリリースした。

今後の展開等

アプリを実施しながら、GPS機能と接続することで近隣のヒーロー(子どもの心の支援をする職種)の情報を子ども、家族が容易に知ることができるように発展させていく。

*本アプリは久留米工業高等専門学校の学生たちがシステム開発を担当しました。



親子の心の診療を支える親子向けアプリ制作に関する研究
子どもと親のためのヒーロー図鑑～心を支えてくれるヒーローたち～

Google Play

Download on the App Store

久留米大学 小児科/精神科
(永光 健一・石井 隆六・牧野 典子・山下 拓史)
久留米工業高等専門学校
(井上 浩典・小野 光・上野 秀雄・川原 裕生・
秋田 翠希・佐藤 悠太・森岡 悠・藤本 真生)

監・デザイン(自野 真由美、自野 陽也)



受賞者名

特定非営利活動法人きずなメール・プロジェクト

取組タイトル

きずなメール事業

所在地 〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北5-1-5-301

電話 03-6317-5575 ウェブサイトURL <https://www.kizunamail.com/activity/government/>

取組課題 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」

取組の背景

- ・核家族化、インターネット高度情報化により、子育て家庭の孤立、育児負担の増大が大きな社会課題となっている。
- ・さらに(COVID-19)により「非接触」の支援・サポートのニーズが高まっている。

目的

- ・“孤育て”(孤独な子育て)の予防。親/養育者を支えることで、最終的には「子どもの権利擁護」を目指す。
- ・子ども虐待予防の観点からは、対象者と「つながり続ける」ことを主として、情報発信はあくまで2次的要素。

対象者

- ・妊娠4週0日～3歳誕生日までの母親父親とその家族(祖父母を含む)

方法

- ・ICTを活用したテキストメッセージング。独自に命名した「きずなメール」というテキストメッセージ(原稿)を使用。
(参考:テキストメッセージングの世界的事例について <http://kizunamail.hatenablog.com/entry/2020/08/21/155831>)
- ・基本となるテキストメッセージは、小児科医に、プライマリ・ケア医、産婦人科医、管理栄養士、保育士、編集者等を中心としたチームで、レビューを複数回実施することにより作成。

今後さらに歯科医、薬剤師などが加わる予定。

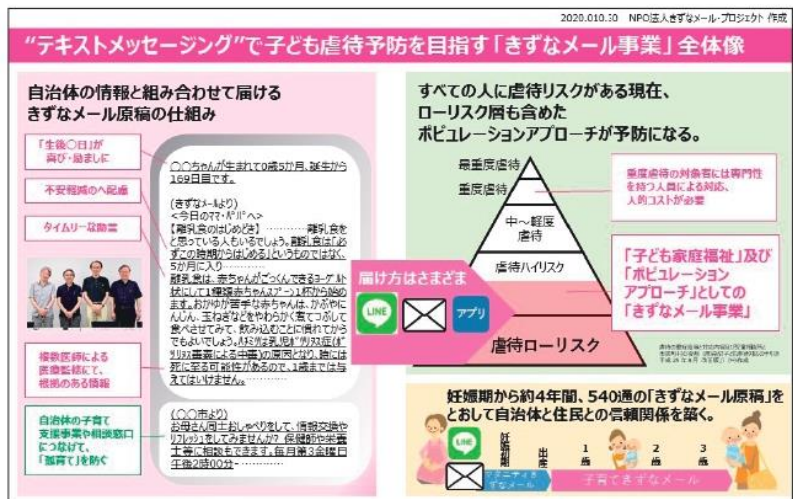
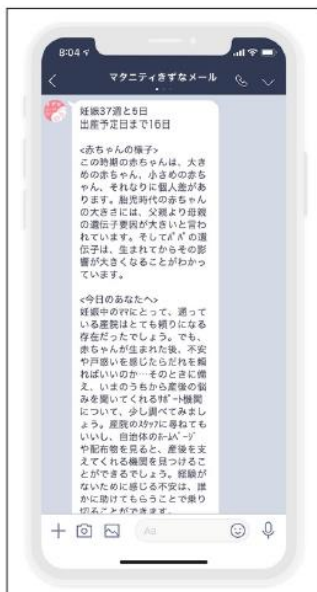
- ・基本となるテキストメッセージを「幹」とすると、その下に、事業を実施する基礎自治体の子育て支援、母子保健サービスの情報が「枝」として加わって配信される。
- ・届ける頻度は、妊娠初期～生後100日までは【毎日】、1歳誕生日までは3日に1回程度、2歳までは週1回程度、3歳までは2週に1回程度と漸減していく。対象者は、期間内に約530通のメッセージを受け取ることになる。
- ・メッセージはメールのみならず、LINE、Twitter、専用アプリなど、自治体が求める形で対象者に届けられる。近年はLINEで届ける自治体が増えている。

成果

全国30の自治体で活用されている。対象者に対して年1回アンケート調査を実施し、ほとんどの自治体で、満足度、開封率ともに9割以上をキープしている。

今後の展開

- ・テキストメッセージングはPublic healthの手法として海外で複数の研究が進んでいるが、日本での研究はこれから。
- ・「きずなメール」をモデルとした「テキストメッセージング」の方法論の普及、一般化。



第9回



健康寿命を
のばそう!
AWARD
優良賞

受賞者名

特定非営利活動法人わははネット

取組タイトル

縁結び・子育て美容-eki

所在地 〒760-0042 香川県高松市大工町1-4

電話 087-822-5589 ウェブサイトURL <https://www.ems-kagawa.jp/biyo-eki/>

取組課題 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」

取組の背景

当法人は、香川県を中心として子育て支援活動を21年に渡り実施しているNPO団体であり、子育て家庭と向き合う中で様々な相談を日々受けている。例えば、「子どもを預ける先がない」「子どもが病気になった時に仕事を休めないで会社を辞めないといけない」「子どもを遊ばせながら保護者同士が交流できる場が欲しい」・等々。例えば一時預かりや病児保育、地域子育て支援拠点等、【行政メニューとして存在する施設やサービスが利用者に知られていない】ことが多い。

また、事業名として知っているても利用するのに少しためらいがあり、一歩が出ない保護者が多い。ファミリーサポートセンター事業もその例である。仕組みを分かっている、地域の人に子どもを預けても大丈夫なのか?と不安で預けられない。

そこで、子育て支援拠点よりもはるかに数の多い美容院やサロンに目をつけ、そこで働く方を中心に子育て支援について勉強してもらい、行政サービス等を利用者につないでもらう事業を企画提案、香川県と共同で実施。香川県は、人口割合で子育て支援拠点の数が全国4位で多いとされているが、それでも県内に98拠点であり、美容院は県内に約2000店舗ある。6割強の人が「2～3か月に一度は利用する」という美容院で、知っている美容師に子育て支援の情報提供をしてもらうことで、普段行政の広報物を見ていない子育て家庭に情報を届けることを考えた。サロンの人は、一定の研修を修了すると認定ステッカーなどがもらえ、利用者に「ここは子育てに優しい店舗であり情報提供ができますよ」ということを掲示する。初めての子育てで戸惑っていたり、身近に相談することができない人も、定期的に利用している美容院で気軽に子育ての話をして情報提供をしてもらうことで、その後の子育てがスムーズに行うことができることに寄与している。

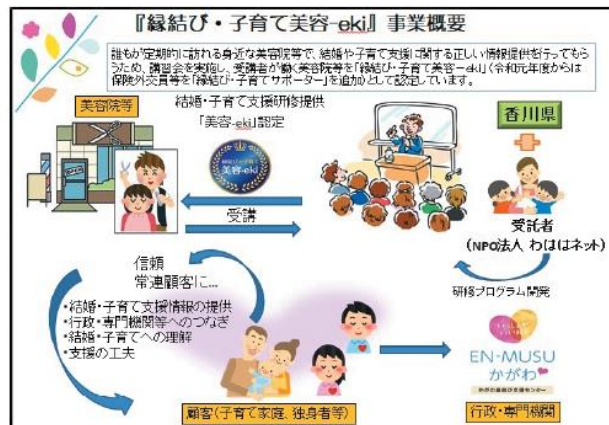
昨今は子育てサービスの情報提供だけでなく、行政が行っている縁結び支援(結婚支援)サービスの情報提供なども行い幅が広がっている。

香川県内ではすでに430店舗以上が受講し、子育て家庭に優しいサービスを展開。事業者の中には、この研修を受けたことをきっかけに店内にキッズルームを設けるなど、さらに優しいサービスを工夫し始めている。行政情報を民間の協力により伝えることで、安心できる情報源として保護者に直接伝えられるサービスとして全国的にも新しいスキームである。美容院側からすると、他店との差別化がはかれ、「子育て美容eki」認定店舗として、さらなる活動展開を図っている。※この命名は、美容院等のサロンで展開していることで「美容液」(一滴で効果があるよ!)と「美容駅」(ここから様々な機関につながる駅だよ)という想いを込めている。



目的

行政では伝えきれていない、各地域の子育て支援の様々な取組



を、既に関係性のある美容院等のスタッフから直接伝えてもらうことで、子育て支援の現場に足を向け子育てを前向きに取り組めるきっかけとなる。

対象者

受益者は子育て家庭・これから結婚を考えている人。

受講者は美容院・理容院・ネイルサロン・エステサロン・リラクゼーションサロン等で毎日子育て家庭の顧客と接しているスタッフ。

方法

「子育て美容eki研修」というオリジナルの地域の子育て事情やメニューの解説などをした研修を、美容院等のスタッフに呼びかけ受講してもらう。

集団研修や、店舗事情に合わせ個別に出前研修を行うことも多い。香川県事業として実施しているため、受講料は無料。

成果

すでに香川県内で430店舗以上が受講を修了している。

美容院等で信頼している人に子育て支援メニューを教えてもらい、子育ての深度さを受け止めてもらえることで、前向きに子育てができるようになったというお客さんからの声も多数届いている。

今後の展開

香川県内のみならず、他県への展開が広がればよいと思う。

また、子育て家庭と個別に話をする機会の多い業種(ライフイベントに接する機会の多い生命保険業の人など)へも広げて展開している。



受賞者名

東京家政大学

取組タイトル

子どもも大人も創造力を豊かにする
アートな遊びの場づくりプロジェクト

所在地 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1 電話 03-3961-5274

ウェブサイトURL <https://www.tokyo-kasei.ac.jp/society/hulip/salon/index.html>

取組課題 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」

取組の背景



参加者の集合写真

東京家政大学は2003年より大学キャンパス内に地域の子育て支援ひろばづくりに取り組んでいる。核家族で地域に頼れる親族がない状況での0～3歳の育児は、孤立しやすく、親子で社会との関わりをもてる居場所が

求められる。

この様なニーズに応え、2010年より東京都板橋区地域子育て拠点事業「森のサロン」として常設ひろばとなった。

森のサロンは地域の親子が自由に過ごせる居場所であり、学生がボランティアとして参加できる仕組みがある。参加者は異なる世代と交流でき、学生にとっては大学での学びを横断的、実践的に体験し、学ぶ機会となっている。

乳幼児期は社会の目に守られ、ゆったりと安心して過ごす時間を確保することが、親子にとって必要である。地域とのつながりの希薄化が進む都市部において、森のサロンは親子がのびのびと過ごし、学生や教職員との交流を育む場として機能している。

目的

イタリアのレッジョ・エミリアアプローチの例にあるように、保育の中にアートの専門家が介入する取り組みが注目されている。乳幼児期の親子にとっても、自然やアートとのふれあいは、心を開放させるとともに、多様な出会いを作り出すことができ、人として豊かな成長と学びを保障すると考えられる。

東京家政大学の学びのひとつである幼児造形という視点から、森のサロンに参加する地域の親子を対象に、学生が自ら企画し、実施するワークショップ「学生がつくるサロンプロジェクト」を立ち上げた。学生は学科を問わず参加でき、親子と学生がアートで繋がることで、健康でクリエイティブな「モノ」「コト」「人」との出会い、学びあいの場づくりを目指している。

方法

- 1) 学生自らの興味関心を基にアートテーマを決定。
- 2) テーマに合わせた場づくり、素材の吟味、チラシ、準備等
- 3) アートワークショップの実施
- 4) ワークショップ後に学生、専門スタッフ、教員で振り返りを行い、学生が報告書(ドキュメンテーション)を制作する。

実施内容と成果

実施テーマ

2015「音とひかりの入り口」

2016「ミステリー?ねんど」

2017「シロクロイロイロ」

2018「とばす」、「かたちべたべた」

2019「ひかりとかげのせかい」、「いろづけ」

内容

テーマ「とばす」では、うちわを使い、紙やビニール、ひもなどを自由にとばすという発想で、「全身を使って顔を上げてのびのび遊ぶ」を実現した。それぞれがやりたいことができるアート空間では、だれもが居心地よく、様々な発見があった。

成果

*親子への効果

アート空間を体験することで、子どもひとりひとりに面白さの探求がみられ、また親が子どもの「個」に気づく機会となることで、このワークショップの特徴的な効果である。

*学生・スタッフ・教員の学び

保育者がこのような活動をする際、どうしてもテーマや目的に沿って、子どもを動かそうとしてしまうことがある。森のサロンでは、保育者や教員はあくまでも観察者として参加することで、親子それぞれが目の前にあるモノ・コト・人との出会いを楽しんでいると感じ、共に過ごすことの心地良さを味わうことができる。



報告書(ドキュメンテーション)



プロジェクトの様子

展望

本プロジェクトでは、異世代が参加するアート活動により、ゆるやかな「モノ」「コト」「人」との対話やつながりを創造することができ、参加者全員にとって新たな発見と多角的な学びの場となった。

このゆるやかなつながりこそが、子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくりの一助となり得るのではないだろうか。また、学生からはこの経験を基に、空間の作り方や全体の構成についてより深く追求していく姿が認められている。

今後も、このプロジェクトを継続し、その学びを地域社会に還元し、地域の親子にとっても、AIにはできない豊かなモノ・コト・人との出会いの場をつくっていききたい。



受賞者名

医療法人社団愛育会 福田病院

取組タイトル

「福田病院 母子サポートセンター」児童虐待予防に向けた産婦人科医療機関の取り組み

所在地 〒860-0004 熊本県熊本市中央区新町2丁目2番6号

電話 096-322-2995 ウェブサイトURL <http://www.fukuda-hp.or.jp/>

取組課題 基盤課題A「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」
 基盤課題B「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」
 基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」
 重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」

取組の背景

子どもの虐待による死亡においては、心中を含まないものでは0歳児の割合が多いこと、その加害者は母親(産婦)が多くを占めることが例年報告されています。加害者となってしまった母親は、約半数が子どもの父親からの支援を受けることができない、あるいは自分の親に妊娠を相談できずに孤立している状況であり、妊娠に伴い出産、子育てに困っている女性が存在することを示しています。

目的・対象

そこで、産科医療機関である福田病院では、病院として医療を提供するだけでなく、女性が安心して妊娠・出産・育児に取り組むことができるように、平成28年に福田病院児童健全育成・児童虐待予防対策本部「母子サポートセンター」を立ち上げ、病院の全部署、全職種のスタッフが母子およびそのご家族からの相談を受け付け、支援を検討する取り組みを実施しています。

- ・福田病院の全職員が「母子サポーター」となって、あらゆる機会でご産婦さんからの妊娠・出産・子育てのご相談を受け付けています。
- ・妊娠・出産の各段階でアンケート調査を実施し、子育てへの身体的・心理的・社会的問題のおそれのある方を抽出し、ご本人のご希望に寄り添いながら支援を検討し実施しています。
- ・特定妊婦をはじめとした特に子育てに支援を必要とする妊産婦さんには「母子サポートチーム」を結成し、地域の子育てサービスと連携しています。
- ・児童相談所・児童福祉施設・社会福祉士会・弁護士などの専門家による第三者委員会において、生まれてくる児童の最善の利益について福田病院での対応を審議しています。
- ・思いがけない妊娠にとまどい、どうしても育てられない場合は「あんしん母と子の産婦人科連絡協議会」の一員として、民間による新生児の特別養子縁組をあっせんしています。

・性教育に積極的に携わり、小中学校、高等学校をはじめとした依頼を受け、2019年には性教育講演を35件実施しています。

成果

福田病院 母子サポートセンターでは、2019年度には約400家族について支援の対象とし、定期および緊急での協議を887件実施しました。協議結果を受け、当院の支援は勿論のこと、当院から134市区町村の母子保健または児童支援担当課等に1,051件の文書によりご家族への子育て支援を依頼しました。

病院から母子の妊娠・出産・治療の経過、心身の健康上の問題点と保健指導の状況を地域の関係機関にお伝えすることにより、ご家族も安心して地域の母子保健および子育て支援のサービス利用を検討していただきました。

また、問題となっている飛び込み分娩や医療の未介入による危険な分娩を予防するために、孤立している妊婦さんの周りの方に「妊娠していること」を伝えることを目的として、マタニティマークを掲示した「病院に来てください」カードを作成しました。

そのカードを使用し、妊婦さんおよび周りの方へ個別保健指導を実施したケースでは全て、病院で無事にご出産いただきました。

今後の展開

2020年度 熊本県産前・産後母子支援事業をはじめ、個別相談支援にSNSの利用を開始しています。困難を抱えた妊産婦さんへの支援について地域毎の課題を把握し、地域力を確認することにより、お住まいの地域での妊産婦さんと赤ちゃんにとって切れ目ない支援体制を構築することを目指しています。また新たに「中高生妊娠相談」の取り組みを開始しました。

